島根県水産技術センター　漁況情報　平成 24 年 2 月 15 日発行

トビウオ通信　（H24　第１号）

http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/　　(TEL 0855-22-1720)

《平成 23 年漁期前半の底びき網漁業の動向》

小型底びき網漁業（かけまわし）

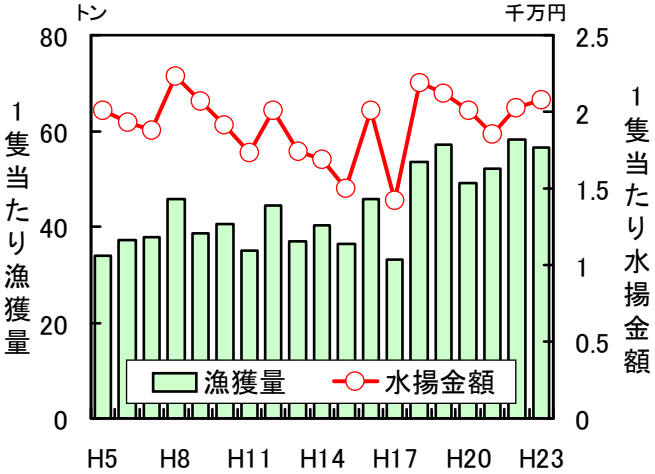

図１　小型底びき網漁業における１隻当たり漁獲量・水揚金額の動向(9～12 月)

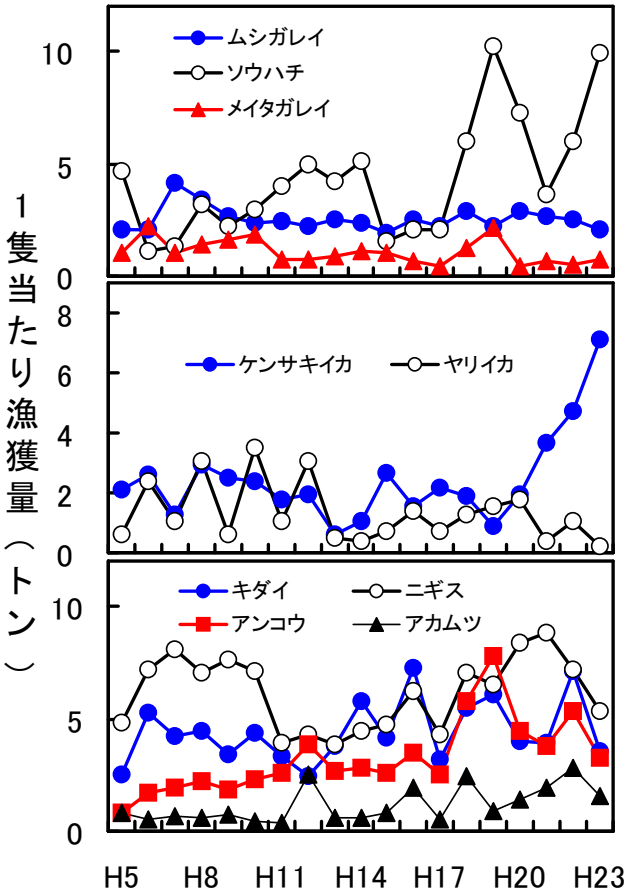

図２　小型底びき網漁業における主要魚種の漁獲動向(9～12 月)

１隻当り漁獲量・金額とも平年を上回る

島根県の小型底びき網漁業(かけまわし)51 隻*の平成 23 年漁期前半(平成 23 年 9 月 1 日～12 月 29 日)の総漁獲量は 2,888 トン、総水揚金額は 10 億 5,866 万円でした。1 隻当たり漁獲量は 57 トン、水揚げ金額は 2,076 万円で、漁獲量、水揚げ金額とも平年を上回りました(図1)。11 月以降、寒気の影響で時化の日が多く、操業に影響がでましたが、漁獲量、水揚金額とも増加しました。

＊　当漁業における島根県全体の操業隻数は 52 隻ですが，統計は 51 隻分の集計です.平年は過去 10 年平均.

ソウハチ　好調！

主要魚種であるソウハチの 1 隻当たり漁獲量は 9.9 トンで、前年の 1.7 倍、平年の 2.1 倍の水揚げがありました。ムシガレイの 1 隻当たり漁獲量は 2.1 トンで、前年、平年の 8 割の水揚げに止まりました。また、メイタガレイの 1 隻当たり漁獲量は 0.7 トン、ヤナギムシガレイの 1 隻当たり漁獲量は 0.5 トンで両種とも平年の 8 割の水揚げに止まりました。カレイ類としては、ソウハチは好調でしたが、他の3種は平年を下回り、低調に推移しました。

ケンサキイカ　過去最高！

ケンサキイカの 1 隻当たり漁獲量は 7.1 トンで、前年の 1.5 倍、平年の 3.4 倍の漁獲があり、平成 5 年以降最高の水揚げとなりました。特に、9,10 月に量がまとまりました。一方、ヤリイカの 1 隻当たり漁獲量は 0.2 トンで、平年の 2 割の水揚げに止まりました。

ニギス・キダイ・アカムツ　前年下回る

前漁期好調であったキダイの 1 隻当たり漁獲量は 3.6 トンで、前年の 5 割、平年の 7 割の水揚げに止まりました。アカムツの 1 隻当り漁獲量は 1.6 トンで、前年を下回りましたが、平年を 1 割上回りました。また、アンコウの 1 隻当たり漁獲量は 3.2 トン、ニギスの 1 隻当たり漁獲量は 5.3 トンで、両種とも前年を下回り、平年の 8～9 割の水揚げに止まりました。

このほか、カワハギ類(2.7 トン/隻)、アナゴ類(2.3 トン/隻)、ヒラメ(0.6 トン/隻)は好調に推移し、平年の 1.6～2.4 倍の水揚げがあり、カワハギ類は平成 5 年以降最高の水揚げと、アナゴ類、ヒラメは過去最高値に次ぐ水揚げとなりました。

沖合底びき網漁業（2 そうびき）（県西部）

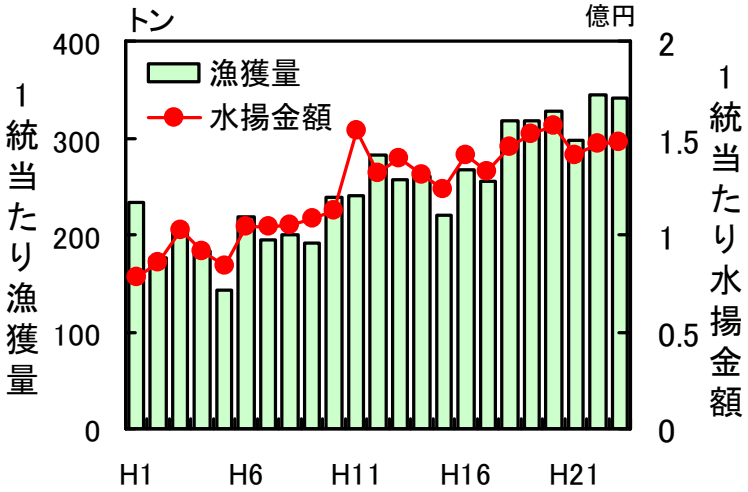

図 3　浜田港を基地とする沖合底びき網漁業における 1 統当たり漁獲量と水揚金額の動向（8～12 月）

1 統当り漁獲量・金額は平年を上回る

浜田港を基地とする沖合底びき網漁業（5 ヶ統）の平成 23 年漁期前半（平成 23 年 8 月 16 日～12 月 29 日）の総漁獲量は 1,703 トン、総水揚金額は 7 億 3,868 万円でした。1統当たりでは、漁獲量 341 トン、水揚げ金額 1 億 4,774 万円で、前年(345 ﾄﾝ、1 億 4,678 万円)並みの水揚げとなりました。一方、平年比（過去 10 年平均 287 ﾄﾝ、1 億 4,088 万円）では、漁獲量は 19%、水揚げ金額は 5%上回りました。

今期前半は台風の影響はあったものの、エチゼンクラゲの影響はなく順調な操業となりました。それに加えケンサキイカの豊漁により、漁獲量は平成元年以降では、昨年に次ぐ高い値となりました。一方、水揚げ金額は魚価の低迷により、伸び悩んでいます。

カレイ類　低調

主要魚種であるムシガレイの 1 統当たり漁獲量は 48 トンで、平年を 1 割下回りました。ソウハチの 1 統当たり漁獲量は 20 トンで、前年の 9 割の水揚げに止まりましたが、平年の 1.4 倍の水揚げがありました。また、ヤナギムシガレイの 1 統当たり漁獲量は 7 トンで前年の 8 割、平年の 5 割の水揚げに止まりました。ムシガレイは平年を下回りましたが、期間を通して堅調に推移しました。一方、ソウハチは 11,12 月にまとまった漁獲があり、前年には及ばなかったものの堅調に推移しました。

ケンサキイカ　豊漁！

ケンサキイカの 1 統当たり漁獲量は 57 トンで、平年の 2.4 倍となり、平成元年以降最高の水揚げとなりました。特に 10 月には 22.4 トン/統の水揚げがあり、昭和 61 年 10 月の 22.8 トン/統に次ぐ水揚げとなりました。一方、ヤリイカの 1 統当たり漁獲量は 0.3 トンで、前年、平年の 1 割の水揚げに止まり、平成 15 年に次ぐ低い値となりました。

アンコウ・アナゴ類・キダイ　好調！

アンコウの 1 統当たり漁獲量は 27 トンで、前年の 1.4 倍、平年の 1.2 倍の水揚げとなり好調に推移しました。アナゴ類の 1 統当たり漁獲量は 30 トンで、平年の 1.4 倍で、平成 11、22 年に次ぐ水揚げとなりました。また、キダイの 1 統当たり漁獲量は 32 トンで、平年の 1.5 倍となり、過去最高であった昨年に次ぐ水揚げとなりました。期間を通して、大型サイズ（通称:レンコ）、は安定した水揚げがありました。アカムツの 1 統当たり漁獲量は 9 トンで、前年の 9 割に止まったものの、平年の 1.2 倍の水揚げとなりました。ニギスの 1 統当り漁獲量は 8 トンで、平年の 6 割の漁獲に留まりました。

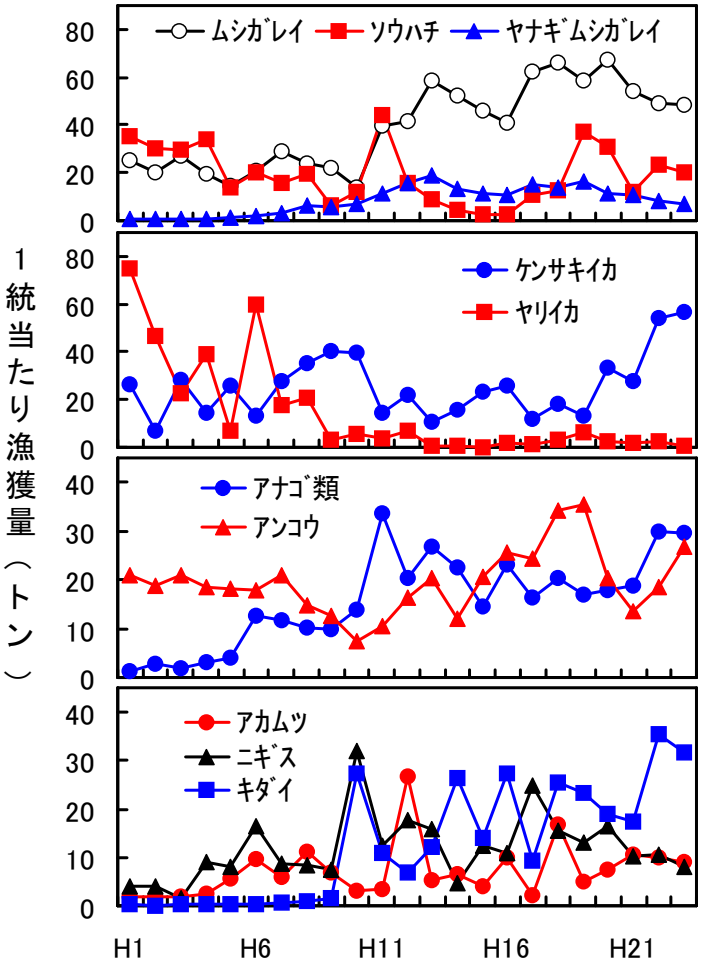

図 4　浜田港を基地とする沖合底びき網漁業における主要魚種の漁獲動向（8～12 月）